

第6回

日本通所ケア研究大会

in 福山

【合同開催】

第5回

認知症ケア研修会



制度改革後にも 勝ち残れる サービスと運営



参加のご案内

日程 平成20年 **11月22日(土)～23日(日)**

会場 リーデンローズ ウェルサンピア福山 アルセ

大会会長 妹尾 弘 幸 (日本通所ケア研究会 会長)

申し込み <http://www.knt.co.jp/ec/2008/tsuusho/>

主催 日本通所ケア研究会 福山認知症ケア研究会

一般演題

発表テーマ 運営・家族・地域への取り組み

【日時】11月22日(土)

【会場】サンピア (中会議室)

〔座長〕 日本通所ケア研究会 会長 ^{せ お ひろ ゆき} 妹尾 弘幸

NO	時間	氏名	施設名	発表テーマ
1	13:25~	藤井 寿和	医療法人社団 容生会 デイサービスゆとり	地域に密着したデイ・デイケアの現状
2	13:34~	稲岡 錠二	社会福祉法人 北丹後福祉会 久美浜デイサービスセンター	地域支援事業実施報告
3	13:43~	福本 朝美	(株)悠遊社 きて民家	「お接待」とおとしての 社会交流(貢献参加)の実践
4	13:52~	中村 旬	労協横浜泉地域福祉事業所こち	地域と共に ~地域の人たちで作上げたデイサービス~
5	14:01~	松本 浩子 長谷川 寿美子	社会福祉法人 訪問の家 横浜市桂台地域ケアプラザデイサービス	地域につながるデイとは ~ボランティアコーディネーターの効果~
6	14:10~	大島 千裕	医療法人 創健会 ウエルネス医療クリニック デイケアセンター	楽しい世代間交流イベント ~夏祭りの経験を経て~
7	14:19~	上田 英樹	指定通所リハビリテーション熊リハ病院	利用者の緊急時対応の取り組み
8	14:28~	佐藤 泰洋	池岡診療所 池岡パワーデイサービス	通所リハビリから通所介護への転換成功と 職員の意識変化
9	14:37~	福井 知夫	医療法人 謙昌会 総合リハビリ美保野病院 デイサービスみほの	デイサービス利用者への接遇向上の取り組み
10	14:46~	内山 豪	医療法人社団 らぼーる新潟 楽しいデイサービス	当施設における「集団体操」の現状と課題
11	14:55~	香山 恭範	五島診療所 デイサービスENERGY	当デイサービスにおける職員教育の試み ~共に悩み・共に話し・共に考える~
12	15:04~	西本 佳未	社会福祉法人 新生会 サンビレッジ新生苑デイサービスセンター	デイサービスが利用者と家族にとって安心 できる場所である為に
13	15:13~	安部 記子	さがみりハビリテーション病院 通所リハセンター	当通所リハセンターにおける情報共有の取り組み ~介護職員とリハビリ職員の連携~
14	15:22~	川本 泉	医療法人 緑風会 長崎みどり病院	介護スタッフの危機管理意識の向上 ~アンケート調査を通して得た事~
15	15:31~	野村 弘行	勤医協 丘珠デイサービス	「家族の集い」を通してのご家族様の変化 ~「家族の集い」の実践の振り返り~
16	15:40~	早川 雅則	医療法人長寿会 清原龍内科 住吉町デイサービス	ターミナル(寝たきり、胃ろう)の方への援助 を通して ~生きがいづくりと課題~
17	15:49~	林 貴子	ケアタウン小平デイサービスセンター	デイサービスを利用した継続的夜間ケアの試み
18	15:58~	田中 史郎	医療法人 中村会 介護老人保健施設 あさひな	家で困っていることはないですか?

当施設における「集団体操」の現状と課題

キーワード：集団体操 リハビリテーション

医療法人社団 らぼーる新潟
楽しいちデイサービス
内山 豪 (SW), 遠山 茜 (CW), 大越 満 (OT)

【はじめに】

当施設は通所介護施設であるが身体機能の維持・向上を目的としたプログラムを行っている。その一つとして行っている「集団体操」は、一人の介護職員がリーダーになり、約 90 分間、約 40 名の利用者が円になり椅子に座ったまま行う体操である。当施設が開設した平成 14 年当初から行っており、理学療法士と作業療法士が中心となって考案したものである。

今回、この「集団体操」が利用者にとどのように受け止められているか把握することを目的とした調査を行った。その結果から今後の課題を考察したので報告する。

【対象及び調査方法】

平成 20 年 9 月 16 日 (火) ~ 9 月 22 日 (月) までの利用者 (要支援 1~要介護 5) のうち、調査に同意を得られた 135 名を対象とした。なお、失語症の利用者と身体機能的に筆記が困難な利用者には職員が聴取した上で記入した。

【調査内容】

調査用紙を用いて以下のように質問した。選択肢は、質問 1、2、3、5 については 5 段階の回答、質問 4 については 3 段階の回答とした。

- 質問 1. 「集団体操」について満足されていますか
質問 2. 「集団体操」の所要時間はどう思いますか
質問 3. 「集団体操」を行うことによって身体がどのように変わりましたか
質問 4. 「集団体操」の内容についてどう思われますか
質問 5. 「集団体操」中、思うように身体を動かしていますか

【結果】 介護度別・年齢別に集計した。

1. 質問 1 について

「満足である」「やや満足である」と回答した利用者は、111 名 (82.1%) であった。介護度別・年齢別による差はなかった。

2. 質問 2 について

「丁度よい」と回答した利用者は 108 名 (80%) で

あった。介護度別による差はなかったが年齢別に見ると、高齢になるにつれ「長いと感じる」と回答した利用者の声が少数だが聞かれた。

3. 質問 3 について

「よくなった」「ややよくなった」と回答した利用者は 78 名 (57.7%)、「変わらない」53 名 (39.2%)、「やや悪くなった」「悪くなった」5 名 (3.7%) であった。介護度別・年齢別による差はなかった。

4. 質問 4 について

「職員によって個性ある体操がよい」と回答した利用者は 85 名 (62.9%)、「どちらでもよい」35 名 (25.9%)、「内容を統一した方がよい」15 名 (11.1%) であった。介護度別・年齢別による差はなかった。

5. 質問 5 について

「十分に動かしている」「やや動かしている」と回答した利用者は 73 名 (53.9%) であった。「やや動かしていない」「動かしていない」と回答した利用者は 46 名 (34.0%) であり、要介護度が重度になるにつれ身体を思うように動かしていない回答が増える傾向にあった。

【考察】

今回、「集団体操」が利用者にとどのように受け止められているか調査した。その結果、利用者は概ね「集団体操」を支持する回答が多かった。しかしながら、介護度が高い利用者ほど思うように身体を動かしていないことが明らかになった。そこで、今後当施設は介護度が高い利用者が身体を動かせるように次のような取り組みをしていきたい。

- ・集団体操中、身体を思うように動かせない利用者への直接援助
 - ・身体機能に関する勉強会の実施
 - ・健康運動指導士などの資格取得の推進
 - ・リハビリテーションに関係する資料の掲示の充実
- これらの取り組みにより、職員のスキルアップを図り、すべてのプログラムの質の向上を図りたい。そして、利用者がやりがいを感じ満足していく身体機能向上に向けたリハビリプログラムを提供する施設を目指したい。